

インキュベーション・マネージャー 支援事例集

SUPPORT CASE



釧路・根室地域の産業支援機関

釧路根室圏産業技術振興センターを紹介

特集1:産業支援機関のIMを紹介

特集2:支援事例

◆企業からのメッセージ◆

北海道

(財) 釧路根室圏産業技術振興センターの概要



財団法人釧路根室圏産業技術振興センターの概要

釧路工業技術センターは、釧路市が設立し、財団法人釧路根室圏産業技術振興センターにより運営され、工業技術を核とした釧路根室地域の産業振興を、地元の産学官の協力を得ながら推進しています。地域のニーズである「1次産業が抱える課題」や「木材等未利用資源の活用」および「自然エネルギー・食品系廃棄物等地域特有資源の活用」に関連する研究・技術開発や事業化に向けた取り組みを進め、総合的な産業支援施策を展開することにより、機械金属・木工・IT・化学等地場工業の高度化と新産業の創出を図り、もって釧路根室圏の産業振興と地域経済社会の発展に寄与することを目的に活動しています。

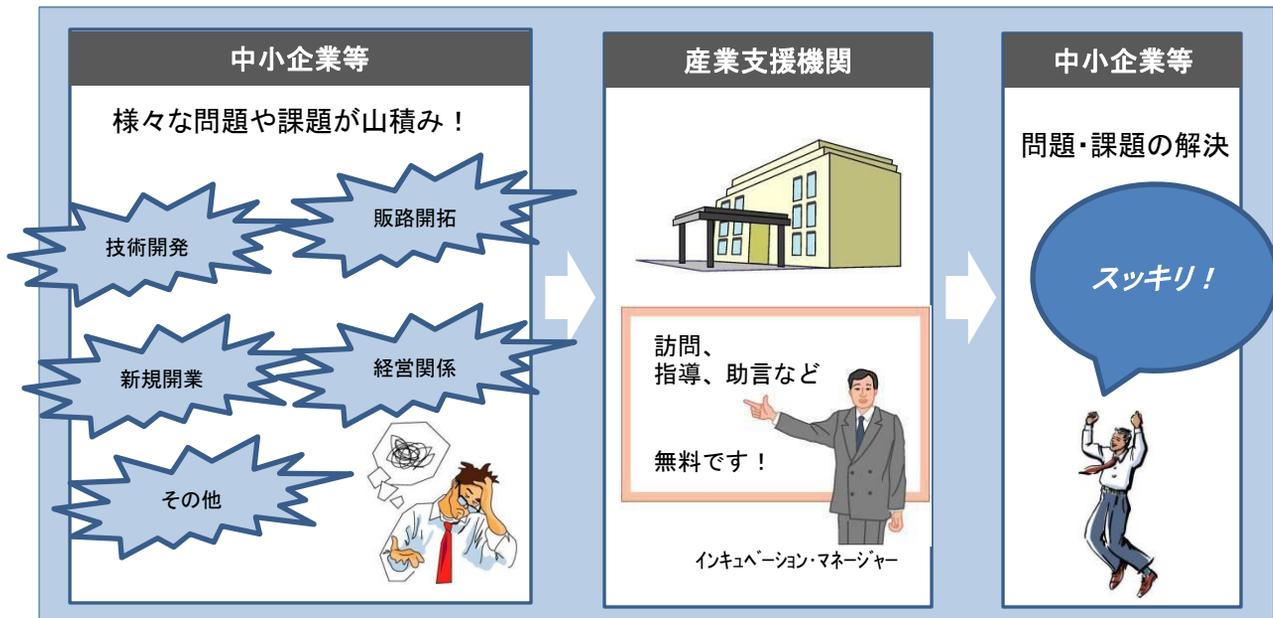


〒084-0905
北海道釧路市鳥取南7丁目2番23号
電話:0154-55-5121
FAX:0154-55-5161
[URL:http://www.senkon-itc.jp](http://www.senkon-itc.jp)

[アクセス]
JR釧路駅から車で約15分
バスで30分(くしろバス(36)白糠線【運輸支局】下車10分)

新事業展開等を図る中小企業を応援します！

- 道では、新事業展開等を図る意欲があるものの、技術面や販路開拓など企業自らが解決することが難しい課題を有するなど、個別具体的な支援を必要としている中小企業を対象に、新事業展開等への技術面や販路開拓などの課題や問題点に対し、企業訪問などにより現状を把握するなどして、解決策をアドバイスしています。また、新事業展開等に向けた企業が行うビジネスプランの策定や、相談内容に応じて他の機関や制度の活用に向けた紹介や仲介の調整等の支援を行っています。
- 相談に関しては、道内6地域の産業支援機関に配置したインキュベーション・マネージャー(IM)が対応していますので、お近くの支援機関までお問い合わせください。(無料)



地域名	産業支援機関名	住所	電話番号
胆振・日高地域	室蘭テクノセンター	室蘭市東町4丁目28番1号	0143-45-1188
道南地域	函館地域産業振興財団	函館市桔梗町379	0138-34-2600
道北地域	旭川産業創造プラザ	旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号	0166-68-2820
オホーツク地域	北見工業技術センター運営協会	北見市東三輪5丁目1番地4	0157-31-2705
十勝地域	十勝圏振興機構	帯広市西22条北2丁目23番地9	0155-38-8808
釧路・根室地域	釧路根室圏産業技術振興センター	釧路市鳥取南7丁目2番23号	0154-55-5121

特集1: 産業支援機関のIMを紹介

インキュベーション・マネージャーって何？

ビジネス・インキュベーションという言葉の由来は、アメリカのある地域で、倒産した会社の広大な建物を買い不動産を始めた人が、建物の中を小さく仕切り失業者の起業場所に貸した時、借り手の中に養鶏業者がいて孵化器(インキュベータ)を使い鶏を育てていました。たくさんの卵を孵して雛を育てることが、大家が失業者の世話をやきながらビジネスをたくさん立ち上げることと似ていたので、「ビジネス・インキュベータ」を経営していると大家が冗談を言ったのが始まりと言われています。

インキュベーション・マネージャー(以下、「IM」という。)とは、新規創業や経営革新などの新規事業などに意欲的に取り組む企業の問題解決を図る人材のことです。

現在、道内には29名のIMが地域産業支援機関などに配置されています。北海道の地域経済の活性化を図るため、関係機関とのネットワークを活かしながら、日々、地元企業のサポーターとして活動しています。

総務企画課長 原田 隆行 HARADA TAKAYUKI

企業様が抱える経営や事業化等に関する課題の解決に向けて、企業様自らが主体性をもった形で取組みができるよう、これまで培ったネットワークをフルに活用しながら、企業様と一体となって取り組むことを心がけています。

また、取組みの推進には、関係する各支援研究機関の強力なサポートが必要であり、日頃から顔の見える連携・協力関係づくりを大切にしています。

◆インキュベーション・マネージャー(平成15年度取得)



財団法人釧路根室圏産業技術振興センターでは次の事業を行なっています。

- ①技術相談 地域の企業を訪問やセンター利用者に対し、技術的な課題など各種の相談に対応します。また技術的課題の解決を図るため、技術者の受け入れ等による指導を随時行います。
- ②設備の開放 設備機器の利用開放をします。
- ③試験・検査 企業からの依頼による分析・検査・計測を行います。
- ④情報受発信 産業技術に関する情報収集を行い、企業に有効活用していただきます。
- ⑤産学官交流 企業からの相談に応じ、関連する高等教育機関、試験研究機関との連携をとり、産学共同研究を促進します。
- ⑥研究開発 新製品・新技術の開発に取り組む企業を技術的に支援するほか、自主研究開発を行います。
- ⑦研修会・講習会 技術向上のための各種研修会、講習会、技術実習を開催します。

キクイモの特性を利用した食品用途開発・販売促進

■企業の概要

企業名: 株式会社 フードハーツ

所在地: 北海道釧路市末広町2-23

設立: 平成20年2月

業務内容: フレンチレストラン「Restaurant & Community IOMANTE」、ガレットカフェ「IOR(イオル)」を運営。地元生産者や研究機関と連携した地域資源を用いた食品開発・製造販売。市民向け料理教室や食育活動の企画運営・講師派遣。

釧路市を中心とした道東エリアを「食」で活性化させることを主として活動。



「Restaurant & Community IOMANTE」の店内

キクイモパウンドケーキは、釧路地域に限定したキクイモ、小麦粉などを使用した商品であり、インターネット販売や地元お土産店や同社が経営するフレンチレストランの店舗においても販売し、好評を得ている。

■ 支援機関に相談した内容についてお聞かせ下さい。

- ・〈創業時〉
事業計画のブラッシュアップ 創業費の資金調達
- 〈キクイモの有効利用を目指した商品開発時〉
釧路市で栽培収穫されている機能性野菜「キクイモ」の成分調査と商品化プランニング
各種助成制度の活用方法
- 〈販路拡大、新事業展開時の資金調達〉
商談会や物産展などの出店時の準備方法

■ 現状と問題点・課題をお聞かせください。

- ・フレンチレストラン「IOMANTE」は市内中心部に位置し、主に道外からの観光客や食に強い興味のある市民に対し地域の特色ある食材を紹介・提供し、高い評価をいただいている。
- ・ガレットカフェ「IOR」は、IOMANTEのメニューや活動によって価値や関心が高まった食材をスイーツやカフェメニューのような、手軽な商品・サービスに変え、地元市民が「単なる憧れの食材」から「自ら手が届く食材」へと普及させることを目的に取り組んでいます。
地域資源の商品化やブランド化、特に食分野においては地域住民の認知や応援が不可欠でありそのためには実際に地元のお客様が体験摂食しその価値を共有することが必要である。しかしながら地域経済の疲労により消費マインド低下が顕著になり、その体験機会そのものが減少傾向にある。

■ 支援機関からどのようなサポートをしてもらいましたか。

- ・創業時の事業計画の作成支援。各種助成制度の活用と金融機関の紹介。
全国での商談会や物産展出店時にも出店支援やブース作成の協力、ネットワークを活かした商談先企業の斡旋や仲介もいただいております。
研究機関との連携事業でのコーディネート、広報活動も行っていただきました。



代表取締役 舟崎 一馬 氏

■ 今後の目標・展望をお聞かせください。

- ・地域資源の価値喪失を防ぐため、単なる価格競争ではなく、その素材のストーリーや栄養価値など消費者にみえにくい部分を支援機関や他業種の技術支援を受け「見える化」し、そこに価値を感じてもらい、地域としての競争力を強化していくことを計画しています。

■ 支援事例集をご覧になる中小企業の方に何か一言お願いします。

- ・インキュベーションマネージャーは、人的な資源が少ない私達中小企業が事業活動を行ううえで、今後ますますかけがえのないビジネスパートナーとなります。日頃から定期的に事業内容について報告や相談をしておく、街場の掛かり付け医のように小さな病気のうちに診断をしてくれます。



— IM から一言 —

- ・本格フレンチレストランが、地域に受け入れられるかについて懸念点として挙がっていて、開業当初は客数の少ない時期もありましたが、すぐさま、地道な宣伝活動や口コミにより、地域のお客様からも受け入れられて、安定した支持を得ることができました。最終的には、当レストランの存在が知れ渡ることにより、地域食材を活用した本格フレンチレストランの需要が地域に存在することが分かりました。

酪農家の省エネ対策 ミルクヒートポンプシステムの開発

■企業の概要

- 企業名: 有限会社 柳田電気
- 所在地: 北海道標津郡中標津町青葉台14-35
- 設立: 平成8年4月
- 業務内容: 中標津町の農業者を中心とした電気工事業を経営。地域へ貢献するため、技術力の向上を図りながら、環境に配慮したCO2削減システムを開発・研究。



ビジネスエキスポへの釧路根室圏産業技術振興センターブース共同出展時のPRの様子

柳田電気が開発し、酪農ヒートポンプ協議会(中標津町)が販売しているミルクヒートポンプシステム「SERINA」が平成22年度に北海道省エネルギー・新エネルギー促進大賞の省エネルギー部門の大賞を受賞しました。このシステムの導入により北海道の平均的な規模(100頭)の酪農家で、年間のランニングコスト約60万円、二酸化炭素の排出量は、約7トン削減されると試算しています。

■ 支援機関に相談した内容についてお聞かせ下さい。

・以前、搾った牛乳の熱を回収し、牛舎内の洗浄や搾乳機の洗浄に使われるお湯を生成するミルクヒートポンプ給湯システムの開発・研究を行い、共同研究機関として釧路工業技術センターにご協力をいただきました。

この研究には、システム上の課題があり、その課題を解消するため、平成22年7月、冷却機能を備えた氷蓄熱ヒートポンプ給湯システムとして、新たな研究・開発に当たって、再度、釧路工業技術センターにご協力をお願いした次第です。



代表取締役 柳田 清志 氏

■ 現状と問題点・課題をお聞かせください。

・冷却機能を備えた氷蓄熱ヒートポンプ給湯システムの研究・開発にあたっては、搾乳時の牛乳冷却のための運転と、搾乳時以外の氷蓄熱運転の稼働を分割した模擬システムを設計し、経費の試算、CO2排出量などの環境負荷低減効果といったシステム評価を行いました。

この一連の研究・開発において、模擬試験やシステム評価、また、データの測定や集計、試算結果から予測される評価からデータ分析に至るまで、結果・成果のまとめにご協力いただきました。

・冷却機能を備えた氷蓄熱ヒートポンプ給湯システムの研究・開発の結果、模擬試験による試算結果から評価できるものの、実際の酪農牛舎において長期間のフィールド試験を実施することができなかつたため、今後、補助事業などを活用し、本システムを実際の酪農牛舎に導入し、長期間の実証試験のデータを蓄積するなど、システムの実用性の確立に向けた取り組みを行う必要があると考えております。

■ 今後の目標・展望をお聞かせください。

・近年注目されております環境へ配慮したCO2削減システムには、ヒートポンプシステムを含め更に発展していくことと思います。また、経済的にも省エネルギーといった要素もありますので、新エネルギー事業の研究・開発は、今後とも必要不可欠であると思います。当社は、新エネルギー事業の展開について、地球環境、そして地域へ貢献するためにも、今後とも研究・開発を行うための努力をして参りたいと思っております。

■ 支援事例集をご覧になる中小企業の方 に何か一言お願いします。

・自然環境には、まだまだ埋もれている未利用エネルギーがたくさん存在しております。

私たちは、そのような新エネルギーを将来社会に貢献するためにも、日々の研究・開発はもちろん、異業種間の交流、研究成果の公開など、釧路工業技術センターが与えてくれる貴重な機会を大事にしながら事業展開を行っていきたいと思います。



— IM から一言 —

・柳田社長とお話すると、様々なアイデアが湧き出てきて、常に圧倒されているばかりです。また、柳田社長は良く「自分は電気屋だから街を明るくするのが仕事」と口にされ、地域の活性化を念頭に、地場を代表する産業である酪農業の環境・エネルギー対策の研究開発に積極的に取り組まれています。地域の支援機関として今後とも引き続き、この取り組みに参画させていただきたいと思っております。

海水電解殺菌装置の用途開発・販路開拓

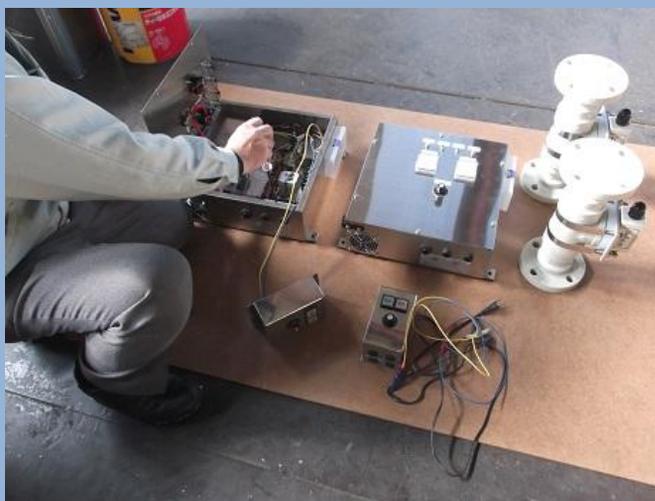
■企業の概要

企業名: 有限会社 エスティテクノス

所在地: 北海道釧路市星が浦南3丁目1番8号

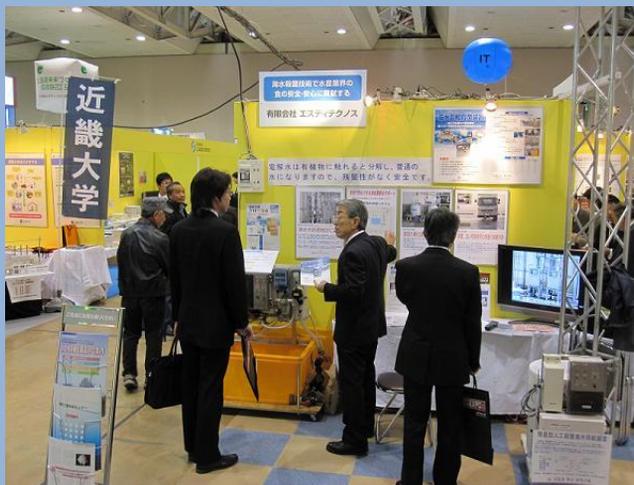
設立: 平成15年9月

業務内容: マリン課 : 小型船舶用エンジン、関連機器売造修、海水電解殺菌装置開発販売
電機課 : コールマイン(石炭炭鉱)の電機機器メンテナンス、クレーン等、重量移動機器販売造修等



出荷前の最終点検を受ける
漁船の漁具、船具洗浄等に
用いられる海水電解殺菌装置

ビジネスエキスポへの釧路根室圏産業技術振興センターブース共同出展時のPRの様子。毎年、新たな客先の獲得の機会に活用していただいています。



■ 支援機関に相談した内容についてお聞かせ下さい。

・海水電解殺菌装置の開発製造に関して北海道大学水産学に海水電解殺菌装置をどのように水産物に利用して衛生管理の向上に利用するのが良いか？

水産試験場に海水電解殺菌装置を使用した海水で魚類の洗浄を行った後の結果の評価依頼を行いました。釧路市漁業協同組合の協力を頂き漁場管理船で釧路沖の海水で電解殺菌後の電解海水を飲料に適かどうかの分析調査を行いました。

岸壁のそばの荷揚場の一部を借りて海水を直に使用して電解海水の調査実験を行うことが出来て知識の蓄積が出来ました。

■ 現状と問題点・課題をお聞かせください。

・インターネットにホームページを開設し弊社の現状製品の紹介と展示会での製品紹介を行い普及宣伝に力を入れた結果、各方面からの照会が来る様になりました。水産加工場で使用している海水の衛生管理の向上を目指し弊社の殺菌装置を導入して如何に設備したら良いか？の相談を受ける様になりました。

納入先としては、南は九州大分県の日本水産㈱の中央研究所から北海道斜里第一漁業協同組合の定置漁船に搭載される等の実績を上げることができました。

・第一の問題点としては、水産物の衛生管理の向上が目的ですが、一般の海水を殺菌することは出来ませんが、発生させる次亜塩素酸ナトリウムが食品添加物に承認されないのが、水産加工物の最終出荷時に使用できない現状があります。その対策として水道水と食塩で人工の海水(食塩水)を造り電気分解をして電解水を自動製造する装置を開発しなければなりません。しかし、釧路市漁協の協力で最終製品にも投入可能な人工電解海水製造装置を開発することができました。



釧路エンジニアリングセンターのエスティテクノス

■ 今後の目標・展望をお聞かせください。

・海水の直接電気分解から始まり、水道水と食塩を利用して人工海水を生成させて電気分解した電解水(機能水)製造装置、温泉に使用されている次亜塩素酸ナトリウムを更に電気分解をかけて活性化装置を納入するなど、幅広く使用目的に対応できるノウハウを蓄積してきており、今後、本格的な営業に結びつけられることに期待しています。

■ 支援を受けてどうでしたか。

・支援を受けて試作実験調査に使用した可搬式海水電解殺菌装置は今回の震災被害の沿岸での衛生管理に少しでも寄与できればと思い宮城県気仙沼に貸し出すことにしました。



— IM から一言 —

・(有)エスティテクノス様は、マリン課にて、漁船用エンジンの販売とメンテナンスを手掛けています。水産に関わるさらなる用途、商品開発はもとより、養護老人施設への適用のように、様々な分野への触手を伸ばし、あらゆる分野に存在するあらたな用途開発にチャレンジし続けていただければと思います。私どもも微力ながら応援し続けます。